

ご 挨拶

同窓会長 中舎 美津男

このたび、山口正和会長のご退任のあとを引き継ぐことになりました。

会長推挙委員会の推挙に始まり、理事会や評議員会等の承認をいただき、会長に任命されました。もとより、浅学非才のわが身、創立以来130年にわたる伝統と約2万人の会員を擁する本会の会長の重さを痛感しています。皆さま方のご理解・ご支援のほど心からお願い申し上げます。



さて、我らが同窓会の目的には、①会員相互の親睦を図り ②学識を高め ③母校の発展と ④教育文化の進展に寄与する、の四つが掲げてあります。我らが同窓会は、過去これらの目的達成を絶えず意識して営々たる運営がなされてきました。

特に昨年度は、130周年の節目として、最良の旧校舎跡地に26トンもの大きなインド産の自然石による本体とフィンランド産の美しい石に、辻太先生によって刻まれた沿革史の記念碑が建立されました。

また、「教育研究実践論文」の募集・審査・表彰・優秀作品の紹介等先輩たちが求めたもの、あるいは求めようとした諸事業の実現に努力しています。

ところで、平成16年度からスタートした国立大学の独立法人化に伴い、我らが同窓会の活動内容も大きく変化しております。同窓会の存在とその活動が今まで以上に強く認識され、同窓会が大学と一体となり母校の発展に寄与する事が求められています。具体的には、①入学式に参列 ②教育学部入学者と保護者への挨拶とお願い ③教授会での挨拶とお願い ④教員養成講座での講師 ⑤過年度卒業生の教員採用試験合格への激励と援助 ⑥大学1年次からの学校現場での教育活動の受け入れ ⑦卒業式への参列 ⑧卒業式当日の祝賀会の主催等々があります。

母校の教育学部においては、文部科学省による「特色ある大学教育支援プログラム」と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の二つの分野に提出されたプランがあります。前者は、「地域・大学共生型教師教育の更なる発展を目指して」であり、後者は、「教師のための遠隔大学院カリキュラムの開発」であります。幸いなことに、平成16年度見事に二つとも採択され、他大学等への先進事例として情報が提供されたり、財政支援がなされるという輝かしい存在にあります。

また、教育学部の就職率は、平成16年度91.4%の高率を示し、教育系の学部としては全国第1位となりました。(週刊東洋経済2005. 10. 15)就職先は、広範囲にわたっています。教員採用については、教員採用試験を受験する4年生の約半数が合格するという好成績を上げていますが、教員を希望する学生が学年在籍数の約半数という状況が続いています。

独立法人化6年後(実質的には約4年)の中期総括において、更なる高評価を得るためには、全卒業生に対する教員合格者の割合が、50%以上となることが望まれます。

本学部卒業生の教員合格者の増が、本学部の発展に最も効果的であると受け止めています。同時に、過年度卒の会員の教員合格も大切な要素となります。在学生に対する教員志向のモラルを高める方策、過年度卒の会員への援助等、教育学部のご指導を受けながら、同窓会ならではの具対策を粘り強く実践していく必要があります。教育学部に対しては、岐阜市や大垣市等小学校における英語教育特区の実践が急ピッチで進捗している現状等から、全学生に「初級英語会話」を必修化するなど、岐阜大学教育学部卒の学生は一味違うといった付加価値をつけていただくことが、教員合格者増に直結するものと考えます。

また、インターネットの普及に伴い、本学教育学部のホームページが開設されて、その内容が日々充実してきています。我らが同窓会のホームページもリンクしています。卒業生の愛校心の継続・発展には、インターネットは、最適のツールであると思います。従来同窓会報ともども良質の情報を絶えず供給しながら、会員諸氏からの情報も幅広く収集したいと考えています。「各学科・講座同窓会HP」の有効活用を願っています。

本学の発展が、我らが同窓会の発展と連動している事を実感するとき、歴代の教育学部長様を始め、本学部の教職員各位、とりわけ同窓会員で本学部在籍の先生方の熱きご指導、それぞれの場で直接・間接にご尽力賜っております多くの皆さまに、改めて感謝申しあげ、ご挨拶といたします。

教育学部の現状と将来

教育学部長 古田 善伯

岐阜大学が国立大学法人となって1年半が過ぎましたが、まだ十分理解できているとはいえないまでも、何とか法人組織の仕組みや活動の内容が見えてきました。今回は法人化の中で教育学部として取り組んできました平成17年度の内容について紹介したいと思います。



はじめに、昨年度報告しましたように、本学部は特色GP（申請テーマ：地域・大学共生型教師教育システム）と現代GP（申請テーマ：教師のための遠隔大学院カリキュラムの開発）に採択され、全国的に注目を浴びています。この意義や内容については本学部のホームページに詳しく掲示していますので見ていただきたいと思ます。<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/index.htm>

この取り組みを継続して進めており、本年度は特色GPの1つの柱であるACTプランの一環として、2年生の教職リサーチ（体験型実習）を岐阜市内の小・中学校で実施しました。対象学生が2年生ということで、学校での学生の行動に若干の不安を持って実行したのですが、学生の反応や学生を引き受けて頂いた学校の先生の反応は予想以上によい結果であったと感じています。今年で、ACTプラン（1年生から4年生まですべての学年に実践科目を位置づけたカリキュラムの遂行）のすべての実習がカリキュラム上で展開できるようになりました。この取り組みにご協力頂きましたOBの先生方に感謝するとともに、今後もご指導のほどよろしくお願ひします。

一方、現代GPでは、現職教員が自宅や職場で学修することのできる「インターネット型」の遠隔大学院の実現を目指して計画的に作業を進めています。本年度はこの実施に向けてのカリキュラムの構成とコンテンツの作成を中心にして作業を進めています。来年度からカリキュラム開発専攻が最初にインターネット型大学院を開講することになっており、平成19年度からは他の専攻でも実施できるよう計画しています。

ところで、昨年少し触れました「専門職大学院」について、この概要を説明

させていただきます。

現在、中央教育審議会では教員養成に特化した専門職大学院の検討を進めており、その骨格が見えてきました。ここでは「教職大学院」という名称となり、実務家教員（教職経験が5年以上で大学院の科目が担当できる者）を必ず位置づけなければならないようになっていきます。また、従来の大学院では修士論文が課せられていましたが、教職大学院ではこの縛りはなくなり、学校現場での実習（10単位）が必修となりました。そのため、実習の場として、附属学校以外の一般学校も実習の場として展開していくことになります。また、共通科目として、「教育課程の編成・実施に関する領域」「教科等の実践的な指導に関する領域」「生徒指導、教育相談に関する領域」「学級経営、学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」が必須の内容として位置づいています。この内容から見ても従来の大学院の研究中心の内容とは異なり、より実践的な内容になっています。

この教職大学院は、最も早い設置として平成19年度からの開始が考えられます。本学部では教授会で慎重に検討した結果、平成19年度の開設を目指して進めることになりました。しかし、これを実現するためには県教育委員会と連携・共同して進めることが必須になってきますので、現在県教育委員会と話し合いながら教職大学院の設置に向けて全力で作業を進めているところです。この教職大学院はこれからの教育学部の方向を左右する重要な制度であると考えています。この設置に向けて、これからは、同窓会の強力なご援助を頂くことになると思いますが、本学部の発展のため、一層のご援助、ご協力をお願いする次第です。

平成17年11月

法人化後の1年半を振り返って

理事・副学長 佐々木嘉三

平成16年4月から全ての国立大学が法人となり、今までとは異なって大学運営が個々の大学の責任の下に行われるようになった。岐阜大学も『学び、究め、貢献する岐阜大学』を目標に、国立大学法人法の規定に従い6年間の中期計画を定めてその実現に向けて取り組んでおり、期待される程であるかどうかは分からないが、着実な発展をしてきている状態であるといえましょう。



最も大きな変化と実感している点は、財務関係の処置である。過去はいわゆる「配分される校費(教員に配分される教育・研究費)」以外は、事項によって文部科学省に要求し、認められれば示達された金額の範囲で実施する、もし認められなければ次年度以降に延ばすという形での事業展開であった。しかし、法人化後は変動があるにしても、授業料、事業収入と国からの交付金によって年度収入は決まっている。今や、基本的には私学と同じ経営方法で、必要性・緊急性を考慮して大学内・学部間で何を優先して実施するかを自己責任で決定しなければならないし、そのための財務処理方法を明確にしなければならない。このため、最終的な決定権限を明確にしなければ実行できないことが多くなるため、学長・理事からなる役員会での審議を経て、最終的には学長が決定するというで責任体制が作られている。本学では毎週、役員間の問題把握や意見調整などのために役員懇談会が開かれ、必要とあればすぐに役員会に切り替えて審議するという臨機応変の体制を採っており、機動的な運営が行われてきている。

法人化後、特に目立たないが着実に改革を進めている事項に、教育内容と学生募集・入学体制の問題がある。全国の国・公・私立大学が「知識基盤社会」といわれる21世紀の社会環境の変化や、さらに国際間の競争激化を踏まえて、急速に改革を進めなければならないという状況が生まれている。本学でも各学部が①アドミッションポリシーを明確にした学生募集、②教育目標であるカリキュラムポリシー、そして③どんな資質の学生を社会へ送り出すのかというディプロマポリシーを明確にすることが要求され、個性ある岐阜大学の具体化を目指した検討・取組みが進められている。特に教員養成はその中心的な位置に

あり、社会から最も注目・要望されている分野である。養成教育・免許制度のあり方、専門職大学院など、他の分野にも増して厳しく評価され改革が要求されている。教員採用の拡大期になって就職環境が好転しているとはいえ、より資質の高い教員を求める要望に如何に応えるかという大学間の競争は、いっそう厳しくなっていることを十分に認識する必要がある。このような状況下で、本学部は文部科学省の新規事業である「現代GP」、「特色GP」の2件が採択されていることは特筆すべきである。これらプログラムの内容は別途紹介されると思われるのでここでは紹介しないが、全国の教員養成大学・学部から注目されている各種の取組みが積極的に進められ、文部科学省、教育委員会からの評価も高い。護送船団方式といわれた国立大学が法人化され、競争的環境下で、どの大学が個性輝く大学として発展して行くのかは、ここ数年で決まってくると考えられる。

法人1年目の本学に関する状況でマスコミを賑わした点を簡単に説明しておきたい。第一は昨年度の「法人評価結果」4項目の中で、「業務運営の改善・効率化」など2項目で特筆すべき進行状況にあるという高い評価を得たが、「その他の業務運営(安全管理)」では、やや遅れているという低い評価も示された。また、国立大学法人としては唯一、財務赤字(13億円)の大学で、保護者の方から授業料値上げをしなくてはならないのかという心配の電話も頂いた。これは、財投で建設した大学病院の減価償却費を支出に入れたことによる帳簿上での赤字であり問題はないが、長期的な視点からの改善策も検討しつつある。また、岐阜薬科大学との連携問題は岐阜市との協定もでき上がって、「岐阜大学構内への薬大校舎建設」、「連合大学院構想」、「岐阜先端創薬研究機構」の構想が完成しつつあり、今後の本学の大きな発展に繋がるものと期待される。

岐阜大学は全国700を超える国・公・私立大学の学長による「教育分野(15位)・研究分野(22位)の発展する可能性のある大学」と評価されているが、さらに大きく飛躍するためには地域の皆さん、特に同窓会の皆さんの力も借りながら、教育・研究の発展と社会貢献を強めて行かねばなりません。絶大なるご協力・ご援助をお願いしたいと思っている。

平成17年度岐阜大学教育学部同窓会評議会記録

下記により平成16年度岐阜大学教育学部同窓会評議会が開催された。

日時 平成17年 5月21日13時30分から
場所 岐阜大学教育学部第一会議室

日程

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶 教育学部長 古田 善伯 様
4. 来賓紹介
5. 議長選出
6. 議事

- (1) 平成16年度活動報告
- (2) 平成16年度決算報告
- (3) 平成16年度会計監査報告
- (4) 役員改選
- (5) 平成17年度活動計画審議
- (6) 平成17年度予算審議
- (7) その他

7. 閉会

協議の結果以下を承認・決定した

1. 平成16年度活動報告、決算報告、会計監査報告について
報告を受けこれを審議し承認した。
2. 役員改選について
推挙委員会 松田孝弘委員長より次期会長として中舎美津男氏を推挙する旨の報告及び推挙理由、推挙に至る経緯の報告があった。評議会ではこれを受け全員一致で中舎美津男氏を会長として決定した。
その後、中舎美津男会長から平成17年度18年度役員が別紙により提案がありこれを承認した。
3. 平成17年度活動計画について
平成17年度活動計画について各部会から計画が提示されこれを承認した。
4. 平成17年度予算について
平成17年度活動計画にもとづく予算案が提示され審議の上これを承認した。

平成16年度教育学部同窓会決算報告

〈一般会計〉

収入の部

項目	決算金額
前年度繰越金	5,282,427
基金からの繰り入れ金	4,608,891
同窓会費	7,980,000
雑収入	476
合計	17,871,794

支出の部

項目	決算金額
運営費	2,141,315
庶務費	1,435,867
消耗品費	254,291
役員会費	302,647
通信費	148,510
組織活動費	1,036,470
名簿管理費	945,630
名簿作成助成費	90,840
学部援助費	1,143,080
学生活動援助費	783,080
学部活動援助費	360,000
事業活動費	6,634,151
教育実践事業費	2,025,260
130周年記念事業費	4,608,891
広報活動費	2,397,927
会報印刷費	508,221
会報発送費	1,889,706
次年度繰越金	4,518,851
合計	17,871,794

〈同窓会事業活動基金〉

収入の部

項目	決算金額
繰越金	49,839,951
利息	111
合計	49,840,062

支出の部

項目	決算金額
130周年記念事業費	4,608,891
次年度繰越金	45,231,171
合計	49,840,062

〈同窓会教育実践事業基金〉

収入の部

項目	決算金額
繰越金	4,877,780
利息	192
引当金	200,000
合計	5,077,972

支出の部

項目	決算金額
次年度繰越金	5,077,972
合計	5,077,972

(H17年度評議会で承認済み)

平成16年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 江端 雅司

本同窓会事業の大きな柱である教育実践研究助成事業も、今年度で第20回を迎えた。その間、実績が伝統を創り、伝統が権威を醸しだし、県内の小中学校の教職員にとって、応募することは大きな目標であり、憧れとなってきた。

昭和60年に岐阜大学が所在地の柳戸に統合移転した際の記念事業として発足したが、折しも臨教審答申が出される前後であり、時代を見据えた教育実践研究事業で、岐阜県における義務教育の振興と発展に大きく寄与してきた。

平成16年度の教育実践研究助成事業は、岐阜県教育委員会、各教育振興事務所及び各市町村教育委員会のご支援により、「入賞論文集(第20集)」が発刊され、名実ともに実践研究の集大成として燦然と輝く論文集である。

1 応募状況とその傾向

今年度は、1,487名の方々から1,448編の論文の応募があった。内訳は、校長10名、教頭19名、教諭1,405名、養護教諭33名、栄養職員13名、事務職員5名、ALT(英語指導助手)等2名である。性別では、男性758名、女性729名、校種別では、小学校869名、中学校618名の応募があった。今年度もALTの応募があり、この事業がすべての教職員から幅広く応募されていることが裏付けられる。

論文の領域については、1,448編の内、国語科、社会科、算数・数学科が多く、その内、最も多かったのが算数・数学科の219編で、「少人数指導」の成果が出ているといえる。他の領域では、学校経営、総合学習、特殊教育の応募が多かった。

全体的な傾向としては、例年通りの応募数で、個人研究論文が主体ではあるが、校内の研究グループの息吹を感じる論文も多数あった。

2 審査会の動向

審査の観点は、

- (1) 教育の基本的な課題をふまえたものであるか
- (2) 目標、計画、指導・評価の一体化が図られているか

- (3) 児童生徒の成長や変容の姿が表れているか
- (4) 創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか
- (5) 教育実践・研究論文として明確な表記であるか

の5点から、例年同様、厳正に審査が行われた。

最優秀賞は岐阜市立長良中学校の坂野美恵教諭の論文「生活を工夫し創造する子を目指して～一人一人の食生活に対する『見方・考え方・感じ方』がひびきあう授業を通して～」に決定した。

坂野美恵教諭の論文は、学習指導要領の基本的な方向をふまえ、「小学校と中学校との系統性からみたつけない力の分析」、「見方・考え方・感じ方の具体化と生徒の意識の流れにそった題材の構造化」、「実践的・体験的な学習活動の工夫と仲間との学び合いの組織」及び「個を生かす評価と指導・援助の工夫」の点から具体的に記述し、実践を通して検証されており、極めて優れた論文であると評価された。

審査の過程で、それぞれの教育実践論文の優れている点、課題及び改善点等について交流をはかった。

- (1) 学習指導要領の趣旨や内容をふまえて取り組んだ論文が多く、つけたい力を明確にした指導計画が立てられ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導過程や学習形態等に工夫が見られる。
- (2) 児童生徒の興味・関心を中心に据えた教材開発や一人一人に着目し、個を伸ばすことに焦点を当てた指導等、学校の教育目標の具現を意図したものが多かった。また、児童生徒のノートや作品、指導に生かした資料や教材・教具等も分かりやすく位置づけられている。
- (3) 累積的・継続的な研究がなされており、研究の意図が明確であり、児童生徒の成長する姿が表出され、教育にとって大切な見届けがなされている論文が数多く見受けられた。
- (4) 上述のように優れた論文であるが、審査の観点の4は、実践論文の中核ともいべき項目であるが、その追求や言及することが、やや弱いという指摘があった。
- (5) 仮説の設定はどの論文にも位置づけられているが、仮説の持つ意味を十分捉えていない論文もあり、仮説が一人歩きしている論文もあった。仮説に対する検証を意識して記述されれば更によい。
- (6) この教育実践研究論文も20回の節目を迎え、更に質の高いものにするために、「実施要綱」の一部を改正した。

3 新たなスタート

今年度の応募論文を年代別にみると、20代は390名、30代は562名、40代は421名、50代は114名で、各年代の教職員の意気込みを感じることができる。

自己の実践の歩みをまとめ上げ、世に問うことは、また新たな自己を構築することになり、自己研鑽する生き方に敬意を表する次第である。

第21回に当たる平成17年度から、新たな「**実施要綱**」にしたがって、応募されたい。**A版10頁以内**にまとめ上げ、さらに格調のある論文として体裁を調えることになった。今年度も岐阜県教育委員会、各教育振興事務所及び各市町村教育委員会のご支援・ご協力をいただくことになっている。

奮って応募くださるようお願いしたい。(「平成16年岐阜県小中学校 教育実践研究入賞論文集-第20集-」の巻末、参照のこと)



教職員をめざす皆さんへ 仲間とともに

藤井大昌(平成13年度数学教育卒)

私が初任者として赴任した美濃加茂市立加茂野小学校の3年間で学んだことは、「集団」の大切さでした。

「個を大切に」「個に応じた指導を」という言葉をよく耳にしますが、やはり人間は人間同士の関わりの中で学び、伸びていくものです。集団ができてこそ学びがある。集団があってこそ個が伸びる。私はその考えの下、毎年子どもたちと共に学級目標を練り上げ、目標達成に向けて皆が一丸となり、様々な行事に全力で取り組んできました。最後の年の3月に「お別れ会がしたいから自分たちで学級会を開きたい」と言いに来た4年生の子どもたちの姿がとても大きく、頼もしく見えたことは、今でも忘れられません。

今年の春より、私は養護学校に勤務することになりました。特殊教育は初めての経験で、当初は何をしていけばよいのか全く分からず、子どもたちに迷惑ばかりかけていました。早く養護学校の教師として自信を持って取り組めるようになりたいと思い、全研も引き受けました。そのご指導の中で、講師の先生がおっしゃった「特殊教育こそ集団を大切にしなければいけない」という言葉が、私には強く印象に残りました。

将来、この子たちが社会に出た時に必要なのは、コミュニケーション能力です。いえ、人間、誰もが仲間と関わって、仲間と共に生きているのです。そういう目で子どもたちを見ると、何とか先生や仲間と関わろうとして、日々一生懸命彼らなりの表現方法で自らの思いを伝えようとしているのをひしひしと感じます。言葉でのスムーズなコミュニケーションは難しいですが、身振りや笑顔など、その子なりの方法で仲間との関わりを求め、その子なりの方法で仲間を感じているのだということが、毎日彼らと共に生活する中で段々と分かってきました。また、先日は中3の一番の楽しみである修学旅行がありました。私が特に関わっていた子は、途中何度か体調を崩しましたが、できる限り仲間と一緒に活動できるようにと、3日間をがんばって生活することができました。仲間を感じ、仲間と共に過ごしたこの3日間は、彼にとっても私にとっても大切な宝物になりました。

次の春に、この子たちは義務教育を卒業していきます。それまで、3年3組の学級目標である「仲間とともに」を達成するために、これからも先生や仲間同士の温かい関わり合いを大切にしながら、共に歩んでいきたいと思えます。

子どもと心がつながる瞬間があるから

山本洋平(平成13年度体育教育卒)

「子どもだって毎日考えて生きている」そう気付くことができたとき、本当の教師になれたような感じがした。子どもへの関わり方が変わった。

今年度、小学6年生の担任をしていて、一番の感動といえば運動会での組み立て体操である。1学期の終わりには、厳しい練習を乗り越えさせたいという思いと、子どもたちの中にある困難から逃げ出そうとする弱さと向き合うことへの不安があった。しかし、「子どもだって毎日考えて生きている」その思いが自分の迷いを払拭した。「この子たちは、厳しい練習をやり遂げることができる」と、子どもたちを信じる心が高まった。

運動会を2週間後にひかえた9月。体育館には自分の叫び声が響いていた。「集中力が足りないからミスするんだ!」、「泣くな!」、「しっかりやれ!」そう言われた子どもの自分をにらみつける目に、自分は更ににらみつけるといった2週間だった。それでも、子どもたちは自分を憎むことはなかった。体育の授業が終われば、誰かの笑い話と一緒にあって笑い合う学級に戻った。子どもたちは考えていたのだと思う。「なぜ組み立て体操になると、担任は厳しいのか」そして、しっかりとその答えを出していたのだろう。「自分たちの運動会の成功には、厳しさが必要なんだ」自分が見たあの子どもたちの目は、にらんでいたのではなく、応えていたのではないだろうか。大歓声の中、誰一人失敗もなく秋空に堂々とそびえ立つ九つの三重塔を見たとき、強くそう思うことができた。

子どもたちの運動会を振り返る作文の中には、「辛い練習」、「涙」、「感動」という言葉がたくさん書かれていた。自分自身が組み立て体操を通して、感じてほしいと思っていたすべてを、子供たちはしっかりと感じてくれていた。運動会へ向けた取り組みにおいて、自分と子供たちの心がつながっていたことを作文から読み取ることができた。自分だけじゃない、子供たちだって立派に考えて毎日を生きている。一人の人間として・・・。

子どもたちの考えていることは、大人から見たら大したことではないだろう。しかし、素直に純粋に考えることについては、子どもたちのほうが勝っていることを自分は忘れないでいたい。だからこそ、子どもたちの考えていることにしっかりと耳を傾け、これからも子どもたちから多くを学んでいきたいと思う。

卒業まであと少し。お互いの考えを尊重し合い、心と心のつながりを更に強いものとしていきたい。だって人間同士なのだから。

学生の就職状況について

岩田 恵司

① 教員採用を巡る状況について

教育学部は教員養成を目的とする学部として設置されている。その意味で教員に対する学生の就職状況が学部の評価と密接に関わっている。近年、退職教員の増加に伴い教員採用の状況は徐々に改善の方向に向かっている。しかし、我が教育学部にあつて教員採用数の増加が思ったより望めない原因の一つに、教員志望の学生が179名（教員採用試験一次試験受験者数）と全体の約70パーセントにとどまっていることが上げられる。学部では、学生の教育充実を目的として教育実践現場で実習体験に基づいたアクトプランカリキュラムを平成17年度より本格実施しています。県内高等学校への教員志望の学生に対しての広報活動などと合わせて、これらの成果が今後採用者数の増加に繋がることを期待する一方同窓生各位の一層の御支援をお願いいたします。

② 学部生・院生の平成17年度教員採用状況について

	岐阜県小学校	岐阜県中学校	岐阜県高等学校	県外小中高等学校
学部生	27	11	6	34
大学院生	1	1	1	0
合計	28	12	7	34

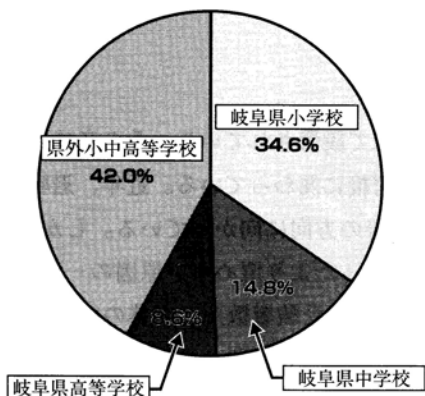
数字は合格者数（名）を表す

以上81名が合格であった。

尚、教員志望者で惜しくも採用試験に不合格となった学生には、学部では、来年度の就職及び平成18年度の採用試験に向けて就職対策委員会、学部事務、教育指導担当講師が学生の窓口となって指導体制を整えている。

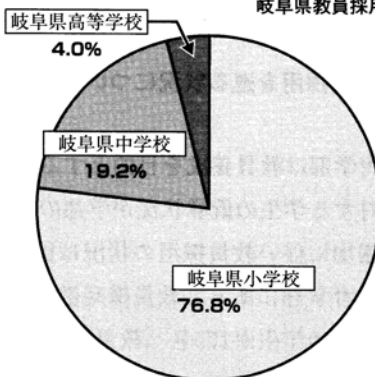
学部生・大学院生の教員採用状況(平成17年度)

合格者数 N=81



既卒者の教員採用状況(平成17年度)

合格者数 N=99
岐阜県教員採用試験



3 既卒者の平成17年度教員採用試験結果について

臨時採用などで岐阜県に採用されている既卒者で岐阜県の教員採用試験を受験した方は221名で、内平成17年度採用試験で小学校76名、中学校19名、高等学校4名の合計99名の方が合格されました。

各同窓会の活動

史 学 科

(事務局 柳津町立柳津小学校 堀内潤一)

(1) 史明会総会

・期日 平成17年 8月20日

・場所 岐阜会館

① 総 会 会長あいさつ、事業報告、会計報告

② 講 演 「文化認識と歴史教育」

講師 岐阜大学教育学部教授 早川万年先生

③ 懇親会

(2) 会誌発行

・『史明』第14号発行

講演記録、事業報告、会員名簿等

社会科(地理)

(事務局 岐阜県図書館 世界分布図センター 奥村 雅人)

(1) 第31回同窓会「濃飛の会」……第37回生(代表 奥村 雅人)が担当

○期日 平成17年 8月6日(土)

○会場 可児市郷土歴史館

① 総 会

・同窓会役員あいさつ

・実行委員あいさつ

・恩師のあいさつ

② 研修報告

「岐阜県図書館 世界分布図センターの紹介」

(2) その他

・次回38回生代表あいさつ

(3) 可児市郷土歴史観の見学

(4) 次回活動予定 平成18年 8月5日(土)

38回生(代表 大口 隆)

社会科(哲学)

(事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 田中 明)

(1) 活動報告

① 定例代議員会

開催日 平成17年 8月20日(土)
会 場 グランヴェール岐山
内 容 事業報告、会計報告、事業計画等

② 哲学科同窓会「哲学の集い」

開催日 平成17年 8月20日(土)
会 場 グランヴェール岐山
内 容 講演「銷篤裸感」

岐阜大学教育学部社会科教育講座 助教授 坂内栄夫 様
講演「たかが哲学、されど哲学」

昭和43年度卒業生 近藤新八 様

(2) 「哲学の集い」の概要(代議員会内容も含む)

今年度は会員13名、大学より小澤先生、小林先生、坂内先生のご参加を
いただいて開催した。幅広い年齢層の参加があったが、年々減少していく
参加者数を考慮し、会員名簿の整備と確実な連絡方法のあり方、開催日の
選定など、来年度に向けての課題が話し合われた。ここでの話題をもとに、
来年度以降の「哲学の集い」のあり方を検討していく必要がある。

講演「銷篤裸感(しょうしょざっかん)」では、岐阜大学の坂内先生より、
コンピュータによる資料データ化の具体例を切り口にして、不易と流
行についてお話しいただいた。自立的精神を支える批判的思考や、複眼的
思考の重要性を痛感する講演であった。

講演「たかが哲学、されど哲学」では、長年教育に携わってみえた近
藤新八さん(昭和43年度卒業生)より、これまでに経験された具体的事例
から、「哲学」を通して考えていくことの重要性をお話しいただいた。真
偽をつなぐものが哲学であり、ジャンルにとらわれず、ものごとを総合的
に、本質的に見ることができるのが哲学であるということを教えていただ
いた。

数 学 科

(事務局 岐阜市立加納中学校 森川勝介)

1 総会

[開催日] 平成17年 5月14日(土)
[会 場] 岐阜大学教育学部本館7階第一会議室
[講 演] 講師 岐阜県教育委員会 研修管理課
石神 淳司 様

[研究会]

- 発表者 43期 井上 誠 様 (揖斐川町立 北和中学校)
46期 北野 智宗 様 (岐阜市立 長良中学校)
42期 近藤 法和 様 (可児市立 広陵中学校)

2 同窓会名簿「わしょう」の作成

本年度は同窓会名簿の改訂・発行の年度にあたり、6月末に会員に名簿を発送した。

3 夏期研究会

[開催日] 平成17年8月20日(土)

[会場] 立花屋旅館 岐阜県揖斐郡揖斐川町徳積

- 発表者 45期 小川 泰 様 (岐阜市立 長良西小学校)
50期 山路 健祐 様 (池田町立 池田中学校)

4 今後の活動予定

- 数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成18年2月予定)
- 運営委員会を行い、来年度の計画を立案する。(平成18年3月予定)

理科(化学)

(事務局 岐阜県立岐阜聾学校 華井 章裕)

(1) 総 会：(隔年8月ごろ)

平成18年8月初旬 開催予定

「同窓会報・かんきせん」第18号 9月1日発行

(2) 「岐阜かがく教育研究会」の活動

化学科に限らず、他の学科、他の大学出身者も共に研究活動をしている。

総 会：平成17年12月27日(火)午後6時半

会 場：グランヴェール岐山(予定)

研究発表会：年1回12月下旬(岐阜大学附属中学校の予定)

(3) 「修士論文及び卒業論文発表会」及び「追い出しコンパ」への参加

毎年1月に開催される修士論文及び卒業論文発表会とその後に開催される追い出しコンパに、OB10名ほどが参加し、実業界からの助言や学校現場からのアドバイスがなされ、在学生との交流を深めている。

理科(物理)

(事務局 美濃加茂市立伊深小学校 鈴木雅史)

平成17年度、事務局では会員の異動及び市町村合併等に伴ない、会員名簿

の修正を行う予定です。年次代表の方のご協力をお願いします。

理科(生物) (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 渡辺 寛樹)

- (1) 総会(隔年、次回17回目の総会は平成18年8月に予定)

同窓会員の研究実践の交流及び、親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。

- (2) 生物教育研究会(2ヶ月に1回、実践交流会は毎年12月の第2日曜日の予定)

同窓会員の自主的な自然観察及び、実践交流を行っている。

- (3) 機関誌「岐阜の生物」

毎年12月に発刊、全会員に郵送している。(本年度は第18号を発刊の予定)

音楽科 (事務局 三羽 幸夫)

- 機関誌「間」第35号(年1回)の発行
- 理事会、本部役員会の開催(各、年1回)
- 事務局会(年4～6回)の開催
- 規約の改正
- 役員人事の検討(丸山春雄氏の死去のため)

美術科 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 後藤弘行)

- (1) 同窓会総会を平成15年度に開催し、組織・規約の修正を行った。

年次ごとの同窓会や教職員の有志によるグループ展、研究会、親睦会などを行い、近況の交流を重ねている。

- (2) 平成18年度8月に総会を予定している。

- (3) 各年次代表の方は、同窓会総会にむけて年次会員の現況把握をしていくようお願いします。

体育科 (事務局 岐阜市立明郷中学校 石子 裕朗)

- (1) 総会

○期日 平成17年6月11日(土) (63名出席)

○場所 ホテル「グランヴェール岐山」

- ① 新入会員(19名)と物故者(一般会員2名)の報告

- ② 16年度事業報告、会計報告及び会計監査報告の承認
 - ③ 17年度事業計画、予算の承認
 - ④ 教育学部の現状と動向について、大学の先生から話を聞いた。
- (2) 役員会及び常任理事会を17年1月～6月の間に6回開き、下記について検討及び実施した。
- ① 在学生優秀選手の選出の検討及び表彰（団体優秀8、個人優秀27）、役員3名出席
 - ② 同窓会入会式の検討及び実施（役員5名出席）
 - ③ 「同窓会総会」及び「還暦祝いの会、懇親会」の計画及び開催

技術・職業学科

（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 吉田 竹虎）

(1) 平成17年度の総会（3年ごと）

今年度は、3年ごとに行われる総会の年にあたりました。そこで、以下のように平成17年度同窓会総会を行いましたので、ご報告申し上げます。当日は、世代を超えた多くの参加者があり、懐かしいお話や、教科の繋がりを感じさせるお話などをお伺いすることができ、充実した貴重な一時を過ごさせていただきました。

①役員会

- 日時場所：平成17年7月17日（日） 於：附属中学校
- 内 容：顧問・会長・副会長・理事（地区代表）・庶務幹事・事務局が集まり、今年度の総会の方向や、今後の会の運営方法について話し合う。

②総会・懇親会

- 日時場所：平成17年10月23日（日） 於：石金
- 内 容：・総会 ・記念講演 ・懇親会
- 議 事：・会務、会計報告および監査
 - ・今後の名簿の発送等について（近年は全会員の自宅に会員名簿を郵送していたが、よりよい方向への改善点を次回の総会に向けて検討していく。）
 - ・次回の総会は、“平成20年に可茂地区”で行う。
- 記念講演：記念講演は、岐阜大学教育学部技術教育講座吉田昌春教授をお招きし、「技術科教育の現状と今後の課題」について

お話いただきました。写真や動画、グラフ・表をふんだんに取り入れられたご講演で教科の現状や今後を考えるよい機会になったと非常に好評でした。

(2) 研究大会

同窓会の皆様を中心に組織されています、岐阜県中学校技術・家庭科研究部会県大会が、平成19年に東濃地区で開催される予定です。皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

家 政 科

(事務局 瑞穂市本田小学校 谷村 三奈)

(1) 平成17年度の活動

・会員名簿作成

平成17年度版を作成し、年次代表者に配布した。

(2) 今後の活動

① 総会及び同窓会

次回は、平成21年8月に開催を予定している。

② 年次代表者会

総会及び同窓会開催に伴い、年次代表者、役員、世話役が集まり、活動の方向や総会の持ち方、進め方などについて検討する。

平成21年4月頃、予定している。

③ 同窓会名簿

毎年、会員名簿を作成し、年次代表者に配布予定

英語英文学科

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 山下 敦子)

○会員が1000名を超えました。

○次回の総会は、平成19年1月の予定です。(3年ごと)

●訃報 (謹んでご冥福をお祈りします)

・平成17年2月 本会初代会長 日江井 進先生 (享年85歳)

・平成17年10月 恩 師 横田 忠輔先生 (享年95歳)

— ・ 編集後記 ・ —

☆同窓会報11号のお届け

日本経済が「おどろば」をようやく脱したという。劇的な総選挙大勝利を受け、第三次小泉改造内閣が発足した。衆院選圧勝を背景に改革路線の総仕上げをめざす。税・財政改革は、日々の暮らしにもひしひしと厳しさが浸透してきた。大学改革は、国立大学法人岐阜大学が発足して2年目を迎えた。我が教育学部は古田善伯学部長のもと、着々と改革が進められている。新規事業「特色GP」、「現代GP」等を起ち上げ、特色ある様々なプログラムは、全国の教員養成大学・学部から先進事例として注目されているという。本会報でその一端が紹介できるのは嬉しい限りである。

☆山口会長から中舎会長へ

32年卒の山口正和氏から、34年卒の中舎美津男氏へとトップが交代した。会長の交代にともなって副会長以下の役員・理事・評議員も若返った。

1期2年会長を務められた山口氏、教育学部の統合・再編と国立大学法人化という改革の嵐が吹き荒れた中で、“同窓会として何ができるか”母校への熱き思いで運営に当たられました。教育学部130周年記念の「跡地碑」の建立も特筆すべき事業。ご苦労様でした。

☆教育研究実践助成事業

同窓会の主要事業として行ってきた本事業も20周年を迎えた。長良から柳戸に統合移転した際の記念事業としてスタートしたが、本県教育の振興と発展に不可欠であるということで同窓会としても今日まで継続し、力を注いできた。同窓会の存在と活動内容が、この度の独立法人化で今まで以上に注目されるようになった。その意味でも「岐阜県教育」を同窓会でサポートしようというこの事業への思い入れは大事にしたい。21回からは、これまでの問題点をふまえ、新たな実施要項で応募が始まる。

☆平成17年度教育採用状況

今年度の採用試験に挑戦した現役は179名。教育学部学生の70%にとどまっている。その中で岐阜県小中高の合格者47名(26%)、県外34名、合計81名。今年不運にも敗れた学生で、再度挑戦する学生も多い。教師への夢を追い求めた過年度卒の合格者は99名(55%)。一時の超氷河期が終わり、採用枠が広がった。すてるな！教師への夢。(LT)

第11号 平成17年12月発行

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

発行者 中舎 美津男

岐阜大学教育学部内

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

TEL・FAX 058-293-2344